

# 2024年度 事業計画

(2024年4月1日から2025年3月31日まで)

伝統のかおり高い学園を目指して

学校法人 修道学園

## 2024年度 学校法人修道学園事業計画

### ＜法人本部＞

主要項目	具体策	所管部局	実施月
1 法人運営の充実	(1) 内部統制システムの整備 ・コンプライアンス態勢の整備 ・リスク管理態勢の整備 ・インターネット等の活用による情報公開 ・関係法令に基づく諸資料の公表、公開	法人事務局	年間
	(2) 三様監査の充実 ・監査法人との緻密な連携	法人事務局	年間
	(3) 設置学校に係る関係所轄庁等への対応 ・学則改正等関係所轄庁等への諸手続き	法人事務局	年間
	(4) 人事、給与等処遇に係る基本的事項の整備 ・「働き方改革」に向けた具体的対応策の実施 ・「給与改定」に向けた具体的対応策の検討	法人事務局	年間
2 私立学校法改正への対応	(1) 私立学校法改正(理事と評議員の兼職禁止、評議員会の議決機関化、常勤監事・会計監査人の配置等)への対応 ・理事会・評議員会・監事・会計監査人等の在り方を検討し対応案を作成 ・寄附行為変更認可申請 ・関連諸規程の整備	法人事務局	年間
3 資産の運用	(1) 既定の基本方針、中期資金運用計画変更等に基づく資金運用の継続(資産分散したポートフォリオの継続形成) (2) 法人として統合した資産運用の実施(資金運用委員会)	法人財務課	年間
4 施設の整備	(1) 大学部一体育館の建替事業等の継続 新学部棟の建設事業等の開始 (2) 中高部一本館の建替事業等の継続	法人財務課	年間
5 将来構想の策定	(1) 学園全体の次期中期事業計画(2025年-2029年)の策定 ・各設置学校の中長期計画との調整 ・大学部が「大学・高専機能強化支援事業」の「支援1(学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援)」に採択された。大学部が2027年4月に、農学部を設置することへの対応。	法人事務局	年間
6 その他	(1) 学園創始300年記念事業への対応 ・学園300年史編纂の継続 ・学園300年記念事業の準備 (2) 恒常的な寄付金の募集	法人事務局	年間

2024年度 学校法人修道学園事業計画  
 < 広島修道大学 >

区分 (中期事業計画)	主要項目	具体策	所管部局	実施月
<b>I. 教育と学生支援の充実</b>				
1.教育の充実と 質保証	1) 教学マネジメントの強化	① 教学マネジメント体制の検討と構築 ・教学マネジメント委員会の目的・役割の明確化 ・大学運営会議、自己点検評価委員会、教学マネジメント委員会等の関係性、審議事項等の整理	学長室 教学C	3月
		② 学修成果の可視化の検討と策定 ・学修ポートフォリオの運用方針・方法の検討と策定	各学部 各研究科 教学C	3月
		③ 成績評価基準の策定と適切な運用・管理の構築 ・ルーブリック検証	各学部 各研究科 教学C	3月
		④ 全学的FDのあり方についての検討 ・各学部FD研修の有機的体系化	総務部	3月
	2) カリキュラム改正	① 新カリキュラムの運用 ・2024カリキュラムの円滑な実施	各学部 教職 教学C	3月
		3) 授業アンケートのあり方と活用方法の検討	① 授業アンケート結果活用方法の検討 ・教育力向上に資する授業アンケート結果の活用	各学部 教学C
	② アンケート項目、対象授業、実施時期、実施方法等の再検討 ・アンケート項目数減少による効果検証		教学C	3月
	4) 学生の学習行動、学修成果の把握	① 継続的な情報取得とIR分析の実施 ・IR機能強化に向けた検討	各部局 学長室	3月
		② アセスメントプランに沿った学修成果・教育成果の把握・可視化の実施 ・アセスメントプラン及びアセスメントチェックリストに沿った学修成果・教育成果の把握	各学部 各研究科 教職 学長室 教学C	3月
	5) 実務家教員登用の検討	① 実務家教員登用の検討(実務家教員数の管理)	教学C 総務部	3月
	6) 学習支援体制のあり方の検討	① 単位僅少学生への対応の検討 ・成績不振学生への指導実施と検証 (2024年度より単位僅少学生から呼称変更)	各学部 学習支援C 教学C	3月
		② 現状の学習支援体制の検証と全学的支援体制の再構築 ・全学的支援体制としてのTA・SA制度の運用	学習支援C 教学C 総務部	3月
	7) リカレント教育の検討	① リカレント教育について調査・検討及び整備 ・リカレント講座実施	ひろみらC	3月

2024年度 学校法人修道学園事業計画  
 < 広島修道大学 >

区分 (中期事業計画)	主要項目	具体策	所管部局	実施月
1.教育の充実と 質保証 (続き)	8)ICT教育の整備	①ICT教育と設備のあり方についての検討と整備 ・ICT教育に関する方針策定	学長室 教学C 財務部 情報C	3月
		・データサイエンス科目の実施及び検証	教学C 情報C	3月
		・数理・データサイエンスAI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)申請対応	教学C 情報C	3月
	9)文部科学省AC対応	①人文学部社会科学AC対応	人文学部 学長室 教学C 財務部 総務部 図書館	5月
2.グローバル教 育の充実	1)海外派遣プログラ ムの見直し	①海外派遣プログラムの検証と改善・拡充 ・ワールド・ステージ・プログラムの実施と検証	国際C	3月
	2)留学生受入れの検討	①留学生受け入れと就職支援の検討	キャリアC 国際C 入学C	3月
3.学生生活支援	1)課外活動支援と活 性化への検討	①課外活動支援制度の検討と導入 ・指導者の業務委託制度の整備	学生C	3月
		②UNIVASに対する検討と対応	学生C	3月
	2)学習環境の充実	①学内における学生学習環境(学生自習室等)の検討 ・学生学習環境の空間整備計画立案	学長室 教学C 財務部	3月
		3)高等教育修学支援新 制度への対応	①高等教育修学支援新制度対象大学要件への対応	学生C 教学C 財務部 総務部
	②学生の授業料等減免申請の大学事務手続き・体制の検討と実施 ・支援層拡大への対応		学生C 財務部	6月
	4)就職支援体制の強化		①企業採用動向変更に対応したガイダンス、各種セミナーの検討、実施	キャリアC
②採用新ルールへの対応検討 ・連携インターンシップ・連携就業体験の再構築			キャリアC	3月
③進路状況把握体制の強化			キャリアC	3月

**2024年度 学校法人修道学園事業計画**  
**< 広島修道大学 >**

区分 (中期事業計画)	主要項目	具体策	所管部局	実施月
<b>II. 研究活動の推進</b>				
1.研究活動の推進・支援	1)研究支援の推進	①研究支援のための方策(研究環境、設備)の検討 ・共同研究・寄附研究の推進	ひろみらC	3月
	2)研究費制度の見直し	①科学研究費等の外部助成金の執行・管理内容の検討 ・外部助成金執行・管理に係る業務改善	財務部 ひろみらC	3月
	3)研究活動の推進	①研究活動推進に向けた検討	各学部 各研究科 ひろみらC	3月
2.産学官連携リスクマネジメント	1)産学官連携リスクマネジメント体制の検討と構築	①産学官連携リスクマネジメント人材の育成	ひろみらC	3月
<b>III. 地域連携・地域貢献</b>				
1.地域連携・地域貢献の推進	1)地域連携事業の推進	①協定先との協定内容に基づいた教育・研究・まちづくり・人材育成等についての協働の推進	ひろみらC	3月
		②災害ボランティアリーダー養成講習会の定期的開催	ひろみらC	3月
	2)スポーツ・文化活動を通じた地域貢献の推進	①地域連携体制の検討 ・継続的实施につながる事業検討	学生C	3月
2.産学官連携の推進	1)産学官連携事業の推進	①産学官連携事業のための支援と推進 ・自治体、企業、各種団体等との連携協定の拡充	学長室 ひろみらC	3月
<b>IV. 入試制度の整備と志願者の獲得</b>				
1.入試制度の改革	1)新たな入試制度の導入	①新たな入試制度の整備・実施 ・新入試制度の検証と改善 ・新学習指導要領への対応	入学C	3月
2.入学定員厳格化対応	1)入学定員管理の強化	①収容定員管理の強化に向けた厳格な入学定員管理を可能とする制度の検討と実施	各学部 各研究科 入学C	3月
3.志願者の獲得	1)O.C.等、各種イベントの検証と改善	①O.C.等、各種イベントの検証と実施時期、内容等の見直し	入学C	3月
	2)情報発信力の強化	①情報発信、募集活動の立案と実施	各学部 各研究科 入学C	3月
	3)高大連携・接続の強化	①高大連携事業の検証と見直し ・早期履修プログラムの推進 ・附属協創中高LRC(Learning Resource Center)との連携事業実施	教学C 入学C	3月
			②附属協創高校からの内部進学卒の見直し	入学C

**2024年度 学校法人修道学園事業計画  
＜ 広島修道大学 ＞**

区分 (中期事業計画)	主要項目	具体策	所管部局	実施月
<b>V.大学組織・運営の強化</b>				
1.組織改革・改善	1)学部学科改組の検討	①学部・学科改組の調査・検討と改組案の作成 ・新学部設置に向けた対応 ・認可申請書類作成開始	学長室 教学C 財務部 総務部	3月
	2)大学院改革の検討	①大学院のあり方についての検討と計画案の作成	各研究科 学長室 教学C	5月
		②大学院定員未充足への対応案の検討と実施 ・定員変更に関する届出対応		12月
	3)事務組織の改組	①部局間業務内容・量の検証と人員配置の見直し	総務部	3月
	4)事務システム・業務の改善	①業務データ及び情報システムの一元化検討と指針・計画策定(職場DX推進含む) ・ロードマップに基づく具体的取組スケジュール策定	学長室 情報C 総務部	3月
		②業務情報システムにおけるクラウドサービス利用についての検討及びガイドラインの作成 ・ガイドラインに基づく管理、運用	情報C 総務部	3月
		③新教学情報システムの検討・構築(データ移行含む)と運用	各学部 各部局 教学C	3月
	4)事務システム・業務の改善 (続き)	④予算編成・執行方法の検証	財務部	3月
		⑤教職員の表彰制度の検討	総務部	3月
		⑥学校法人会計基準改正への対応	財務部	3月
		⑦オープンアクセス加速化事業参画の検討	情報C 図書館 ひろみらC	3月
	5)新給与制度への対応	①新給与制度の導入対応及び運用 ・事務手当廃止に伴う職員自主研修の見直し	総務部	3月
		②職員の初任給改善	財務部 総務部	3月
	6)文科省改正省令への対応	①大学設置基準等の一部を改正する省令への対応・検討・整備	学長室 総務部	3月

**2024年度 学校法人修道学園事業計画**  
**< 広島修道大学 >**

区分 (中期事業計画)	主要項目	具体策	所管部局	実施月
2.設備・財政基盤の強化	1)寄附金制度の充実	①寄附金事業の充実及び学園300周年に係る寄附目標額達成等に向けた寄附金事業の推進	総務部	3月
	2)大学設備・施設営繕工事の実施	①策定済み営繕計画に基づいた学内施設の改修工事の実施 ・2024年度の営繕計画に基づいた改修工事実施	財務部	3月
		②計画的な設備入替・更新計画の立案と実施 ・2025年度以降の新たな設備入替・更新計画の立案	各部局 財務部	3月
	3)新規財政計画・人事計画の策定	①長期営繕計画の検証と見直し ・校舎等建替計画及び長期営繕計画に基づく財政計画の策定	財務部	3月
	4)学内禁煙環境の整備	①敷地内全面禁煙への対応	学生C	3月
	5)新体育館等の建設	①基本設計・実施設計の実施、建設工事の進捗管理 ・計画に沿った建設工事の進捗管理	財務部	3月
2.設備・財政基盤の強化 (続き)	6)校舎等建替計画(第4期以降)の見直し	①新体育館等建設に伴う計画の見直し ・校舎等建替計画の策定	財務部	3月
3.外部機関との連携強化	1)同窓会等との連携強化	①同窓会、後援会との連携強化策の検討	キャリアC 総務部	3月
	2)各種団体等との連携強化	①自治体、企業、各種団体等との連携推進	学長室 キャリアC	3月
	3)教育ネットワーク中国、他大学等との連携強化	①教育ネットワーク中国及び他大学等との連携事業の検証と改善	学長室 キャリアC 教学C ひろみらC	3月
4.中長期計画の策定	1)長期計画の策定	①長期計画の策定 ・「2040年の広島修道大学ビジョン」を踏まえた長期計画策定	各部局 学長室	8月又は12月
	2)中期計画の策定	①第5期中期計画(2025年度～2029年度)の策定 ・「2040年の広島修道大学ビジョン」を踏まえた中期計画策定	各部局 学長室	8月又は12月

**2024年度 学校法人修道学園事業計画**  
**< 広島修道大学 >**

区分 (中期事業計画)	主要項目	具体策	所管部局	実施月
<b>VI. 危機管理・広報の強化</b>				
1. 危機管理の強化	1) 災害時対応の体制強化	① 広島修道大学事業継続計画(BCP)のための設備・新規業務への対応(予算化含む)	各部局 学長室 財務部	3月
		② 訓練の実施と広島修道大学事業継続計画(BCP)の見直し	各部局 学長室 財務部	3月
	2) ハラスメント防止の強化	① 教職員ハラスメント防止方策(研修の見直し等)の検討と実施	総務部	3月
2. 広報・広告の強化	1) 広報・広告事業の検証と見直し	① 入学センター、学長室、法人等における広報・広告連携の検討と実施 ・ブランディング強化のための方策策定	学長室 入学C	3月
		② マスコミとの連携強化の検討と実施	学長室 入学C	3月
	2) 戦略的な広報展開	① 校章等の商標登録	学長室 総務部	3月
<b>VII. 内部質保証</b>				
1. 内部質保証の整備と強化	1) 全学的内部質保証体制の整備	① 教学マネジメントを含めた全学的な内部質保証体制のあり方についての検討と整備 ・全学的内部質保証体制の点検  ・自己点検・評価の新体制整備	学長室	3月
		2) IRの推進・強化	① 学習動向、各種大学プログラムの分析・報告 ・アセスメントプランに沿ったIR活用	学長室
		② 大学基礎数値、教育成果指標等の整理・検討	学長室 教学C	3月
	3) 教員活動状況評価表の見直しと活用の検討	① 教員活動状況評価における評価項目の見直し	総務部	3月
		② 教員活動状況評価結果の活用について検討と実施	総務部	3月
	4) 第4期認証評価への対応		① 第4期認証評価申請に係る対応	各学部 各研究科 各部局 学長室
② 教員組織の適切性に向けた計画と管理 ・大学設置基準を踏まえた適切な教員数確認と管理			各学部 各研究科 学長室 教学C 総務部	3月



2024 年度 学校法人修道学園 事業計画  
 < 修道中学校・修道高等学校 >

【教員の部】

主要項目	具体策	所管部署	実施月
I. 学力の向上	1. 大学進学実績の向上 ① 中学新入生の学力の二極化現象に対して、その対応策を協議する。 ② 数値目標の達成に必要な各部署の課題を明確化し、定期的にその解決の状況を確認する。 ③ 東大20名以上合格を数値目標とすることが修道教育に実効性を持つよう、志望者の増加に向け、生徒に対する進学指導、模擬試験対策、進学情報提供を強化する。また、生徒に対する早期からの働きかけを更に進める。特に初級の重要性に目を向け、学習習慣の確立と中学レベルの学習内容の修得を図る。	中学教頭・担当学年  中高両教頭・教頭補佐  進路部・教務部	通年  通年  通年
	2. 学力観の見直し ① 「総合的な探究の時間」について、カリキュラムの見直し、特に3年での取り組みについて出された意見を検討する。学年、授業担当者、育成部と連携を取りながら取り組む。 ② 今年度は高校新カリキュラムの完成となる。今後に向けて修正・検討すべき問題に取り組む。2025年度以降の大学入試に向けての調査研究を引き続き行う。 ③ 単位認定に関する特別措置の本格的始動に向けて取り組む。 ④ 修道ベーシック・ルーブリックを教育活動の柱とし、教職員、生徒、保護者への周知徹底をはかる。また、新学習指導要領の観点別評価を念頭に教科別、単元別などのルーブリックの研究を進める。 ⑤ 開設2年目となるDM(=Diversity Management)教室を、学校にすることができても教室に入りづらい生徒たちの学校での居場所として位置づけ、主にホームルーム教室に設置した授業撮影カメラの視聴も活用して当該生徒たちの進路保障を行う。DM教室には常駐教員2名を配置する。	教務部  教務部  教務部  中学教頭・教務部  高校教頭	通年  通年  通年  通年  通年
	3. 学習意欲の向上 ① 1・2年のセミナー合宿を実施する。	進路部・担当学年	8月

	<p>② 4年の東大見学ツアーを実施する。</p> <p>③ 5年の東大・京大セミナーを実施する。</p> <p>④ 中級からの成績優秀者を顕彰する。</p> <p>⑤ 今年度より6年でコース制を廃止し、文理別で学力を標準化したクラスを設定して、数学・英語のみの能力別授業を行う。実施する中で次年度に向けての課題等を探り、その検討を行う。</p> <p>⑥ 6年間を通した進路指導プランを模索する。</p>	<p>進路部・担当学年</p> <p>進路部・担当学年</p> <p>進路部・担当学年</p> <p>進路部・教務部・担当学年</p> <p>進路部</p>	<p>8月</p> <p>8月</p> <p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p>
II. 国際理解教育の充実	<p>1. 関連行事の実施</p> <p>① 修道ベーシック・ループリックを取り入れたフューチャー・リーダーズ・プログラム（以下FLP）を実施する。</p> <p>② FLPが全校的な取り組みとなるよう、具体的な検討を進める。</p> <p>③ 4・5年生の希望者を対象としたオーストラリア研修を実施する。</p>	<p>育成部・高校教頭</p> <p>育成部・高校教頭</p> <p>育成部・高校教頭</p>	<p>11月</p> <p>通年</p> <p>通年</p>
III. 倫理観の向上	<p>1. 規範意識や倫理観の育成</p> <p>① 修道ベーシック・ループリックの「価値観」をもとに生徒が持つべき規範意識や倫理観を明確にする。</p> <p>② 遅刻指導、ICT機器の利用におけるリテラシー指導を通して「自己の信念を貫き通そうとする姿勢」の向上を養う。</p> <p>③ 交通安全に対する意識の向上、公共交通機関利用時や自転車乗車時のマナーの向上を通して「自分の言動を客観的に見ようとする姿勢」を養う。</p> <p>④ 体育祭などの学校行事や宿泊行事を、安全かつ魅力あるものになるように検討し、柔軟な姿勢で準備を整える。</p> <p>⑤ 新しい学校施設の利用方法や活用などを通して「新しい学校生活」を創造し、柔軟で発展的な思考力を養う。</p> <p>⑥ 創立記念祭を通して、生徒間の繋がりや、創造力を養うとともに、修道の歴史についても考える機会とする。</p> <p>2. 自治向上の精神の育成</p> <p>① 修道ベーシック・ループリックをもとに、生徒の主体性を重視した生徒会活動や班活動を通して、「協働性」「向上心」を育み、何事も自分で切り開いていく「開拓者」精神を養う。</p>	<p>生徒部</p> <p>生徒部</p> <p>生徒部</p> <p>生徒部</p> <p>生徒部</p> <p>生徒部</p> <p>生徒部</p> <p>生徒部・高校教頭・教頭補佐</p>	<p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p>

IV. 教育力の向上	1. 教員の業務改善	中高両教頭・教頭補佐	
	①教員が教育力を十分に発揮できるように、従来の担任業務と副担任業務を見直す。		通年
	②人事考課が公正に行われるよう、授業観察、教員へのヒアリング等を通して多角的なデータの収集を図る。	高校教頭	通年
	③働き方改革の一環として、教員が生徒の面談等の指導をより充実させるために、放課後の時間を確保するシステムを考案する。	教務部・部長会	通年
	2. 教員研修の充実	中高両教頭・教務部	通年
	①業務・授業の効率化とともに、学びの深化を目指し、進化するアプリや機器の基本的な機能を理解し、激変する教育情勢を認識するため、部長・学年主任・教科主任＋希望者を対象とし、必要に応じてキャッチアップ研修を行う。		
	②就任3年目までの教員・各教科から1人＋希望者を対象とし、年間10回を目処に「デジタル・タキノミー」をもとに生成系AIを活用した授業デザイン研修を行い、公開の研究授業発表会でその成果を共有する。	中学教頭	通年
	③革新的且つ生徒の学習意欲を喚起する授業デザインを行い、効果的な授業は校内ネットワークで紹介し、教員の授業研修に利用する。また、課題のある授業に関しては、動画によりその課題を探求し、校長が直接当該教員と課題解決のための協議を行う。	中高両教頭・教頭補佐	通年
	④新課程入試に伴って変動する大学入試情報を共有し、よりよい進路指導を目指す。	高校教頭・進路部長	通年
V. 生徒募集の充実	1. 広報活動の工夫		
	①スローガンではなく、教育活動の結果を示すスタイルで外部広報活動の充実をはかる。	中学教頭・広報室	通年
	②広報活動の一環として、「修道チャレンジ」と称して小学生を対象とした班活動体験を実施する。また、本校において現在募集が弱い地域、今後重要と考えられる地域(安佐南区・東広島・山口県東部・福山等)に赴き、本校の認知度を高めることを目的として、校長の教育講演会、教頭による学校説明会を実施する。さらに中学受験者拡大を目指し、受験マインドを持たないターゲット世代の保護者に広く本校を知らしめるためSNS広告を活用する。	中学教頭・広報室	通年
	③修道ベアシック・ループリックの生徒による	中学教頭・広報室	通年

	<p>自己評価を集計し、その結果から導き出される修道生としてのスキルや価値観の高さを外部広報活動、内部広報活動に活かす。</p> <p>④激変する社会情勢に即時対応する本校の姿を詳しく共有するために学習塾対象の学校説明会を実施する。</p> <p>⑤本校の教育に対する保護者の理解とロイヤリティを高めるために、1年から4年までの保護者を対象として学年別校長講演会を実施する。</p>	<p>中学教頭・広報室</p> <p>担当学年</p>	<p>通年</p> <p>通年</p>
VI. 就学支援	<p>1. 就学支援</p> <p>①修道中学校・修道高等学校奨学生その他、公的機関による奨学制度を生徒及び保護者に対して周知し、支援手続きを行う。</p> <p>②民間の様々な奨学制度の周知及び手続きを実施するとともに、突発的な収入減にも対応できる奨学制度の拡充に関して民間団体と協議する。</p>	<p>教頭補佐</p>	<p>通年</p> <p>通年</p>

#### 【職員の部】

主要項目	具体策	所管部局	実施月
I. 教員事務作業の点検と改革	<p>教員の事務作業負担の軽減を目指し、2024年度は、入試ならびに定期テスト時におけるデジタル採点支援を拡大していく。また、班費の徴収・業者支払い等で教員が現金を扱うことがないように、新たなシステムを立ち上げる。さらに業務を洗い出し、事務室に移管するよう検討を加える。</p>	<p>事務長，総務課 部長会</p>	<p>通年</p>
II. 新本館等の建設	<p>2023 年末には新本館が完成し移転が完了した。2024 年度は旧本館解体，北館増築，ブリッジ新設工事に移行する予定である。</p>	<p>財務課</p>	<p>通年</p>
III. 寄付金制度の運用	<p>同窓会・PTAとも連携を図り、引き続き寄附募集を進める。(4年計画最終年)</p>	<p>事務室</p>	<p>通年</p>
IV. 創始 300 年に向けて、記念事業の計画検討	<p>新本館完成により記念品室も新装された。貴重な資料の保存に意を注ぐとともに、引き続き書籍・収蔵品のデジタル化を進め、また法人と連携を取りつつ学園史の編纂と記念事業を進める。</p>	<p>事務室</p>	<p>通年</p>

2024年度 学校法人修道学園 事業計画  
 (広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校)

主要項目	具体策	所管部局	実施月
<b>I 協創教育の推進</b>			
1. 教育目標達成の取り組み	①生徒及び教職員が「建学の精神」(報恩感謝・実践)並びに「教育目標」(グローバル・イノベーション・リーダーの育成)の理念を意識した教育活動を行える環境を整え、この理念を全教職員が言語化できるように努める。 ②本校で行うすべての教育活動を「協創教育」と位置付け、その基軸に探究的な学びを据え、教育目標の達成を目指す。	全教職員、管理職 全教員、協創教育部	通年 通年
2. 「探究力」(4つの力＝課題解決する力・協創する力・社会参画する力・自己実現する力)の育成	①教育目標達成のための「探究力(4つの力)の育成」を評価する「協創ルーブリック」の具体的な活用法について再考し、評価を試みる。また、「教科別ルーブリック」のブラッシュアップも図り、協創ルーブリックとの整合を図る。	教務部	通年
3. G C P (グローバル・コンピテンス・プログラム)の推進	①教科横断型で特色ある授業のG C Pを探究活動の中で取り組み、「探究力」(4つの力)の向上を目指す。	協創教育部	通年
4. 国際理解教育の推進	①海外提携校・姉妹校との交流や海外研修旅行などを通じて、英語力、異文化理解力、コミュニケーション力、創造力、日本人としてのアイデンティティ(グローバル基礎力)を育成する。 ②広島修道大学との連携による各種国際交流活動を推進する。	協創教育部 協創教育部	通年 通年
5. I C Tを活用した教育の推進	①I C Tを活用した授業づくりを教員間で共有し、協働的な学びのための研究と情報の提供を行う。	教務部	通年
<b>II 学力の向上</b>			
1. 学力向上の取り組みの充実	①「予習⇒授業⇒復習」のサイクルを確立し、自学自習力を高められる授業内容や指示の出し方を工夫する。 ②「ノーチャイム」などによって生徒の自立的な時間管理を促し、授業に向かう姿勢の向上を図る。 ③10分間の朝読書を一日の学びのスタートとして位置づけると共に、読書活動の環境整備の一助とする。 ④L R C (ラーニング・リソース・センター)の生徒の利活用を促進する。また、各授業との連携・利活用を促進する。	教務部 教務部、学年会 教務部、学年会 教務部、各教科	通年 通年 通年 通年

主要項目	具体策	所管部局	実施月
2. 「探究力」を目指す授業づくりの促進	①参加型授業や探究的な学びを促進し、生徒主体となる授業の研究・実践を行う。	教務部、探究推進委員会	通年
	②新たな「探究」授業の深化を図り、その充実に取り組む。	探究推進委員会	通年
<b>Ⅲ進路支援の強化</b>			
1. 組織的な進路支援の取り組み	①「進路シラバス」に基づいた取り組みを充実させていく。	進路支援部	通年
	②広島修道大学附属校推薦、総合型選抜、学校推薦型選抜などの対策案を企画・立案し、実施する。	進路支援部	通年
	③「協創スマート予備校」など、効果的な補習体制のもと、進路希望に応じた補習を実施する。	進路支援部	通年
	④模擬試験の結果を分析し、教科指導に活かすと共に、個人面談を行い、進路実績につなげる。	進路支援部	通年
	⑤2026年度からの修大・進学コースの改編に向けた具体的な取り組みなどを示す。	進路支援部	通年
<b>Ⅳ自立(自律)心の育成</b>			
1. 規範意識や倫理観の育成	①建学の精神を具現化する「み・そ・あ・じ」(身だしなみ・掃除・挨拶・時間)を合言葉にし、徹底を促す。	生徒支援部	通年
	②協創生として自覚すべき協創スタンダード「AIM HIGH」(高みを目指す)につながる取り組みを実施する。	生徒支援部	通年
	③登下校の交通安全、SNSに関して等のルールやマナーの順守を徹底させる。	生徒支援部	通年
2. 学校生活の活性化	①生徒自治会を中心に生徒が企画・運営をすることで、体育祭、文化祭、協創コンテストなどの行事内容の充実を図る。	生徒支援部	通年
	②生徒自治会から全校生徒へのメッセージを発信する機会を増やし、意見交流の場を設定して自治会活動の活性化を図る。	生徒支援部	通年
	③生徒目線での「校則見直し」を教員と一体となって取り組み、継続的に行う。	生徒支援部	通年
	④生徒が部活動に積極的に取り組むことで学校の活性化につながるよう、部活動加入についての啓発活動に取り組む。	生徒支援部	通年
<b>Ⅴ教育力の向上</b>			
1. 教員研修の体系化及び実施	①初任者のための「メンター制度」を実施し、先輩教員から授業や校務などについて指導や助言を行う。	教務部	通年
	②教育データを活用し、教員による「わかりやすい授業」から、生徒が「自ら考え学ぶ」ことを意識した授業展開における工夫に取り組むことで、生徒の主体性を育むことができる授業改善に取り組む(外	教務部	通年

主要項目	具体策	所管部局	実施月
2. 公開研究授業の実施	部講師の支援による研修を通して実施)。 ①授業力向上を目的とした公開研究授業を実施する	教務部	11月
3. 授業評価と授業アンケートの実施	①新たに設置する教育アドバイザーの指導・助言及び評価に基づき授業力の向上を図る。 ②授業力向上のため、生徒による授業アンケートを実施する。	教務部 教務部	通年 6月・11月
4. 評価指針の作成	①授業評価のための教科別ルーブリックをブラッシュアップし、これに基づいて評価を試みる。 ②「学校評価アンケート」(生徒、保護者、教職員)を実施し、結果を分析して具体的な改善策を提案する。なお、アンケート項目については見直しをする。	教務部 教務部	通年 7月・12月
5. 指導と評価の一体化の取り組み	①新学習指導要領の導入に伴って、学習指導と学習評価の一体化に取り組む。	教務部	通年
<b>VI 生徒募集の充実</b>			
1. 戦略的広報活動の実施	①オープンスクール、地域別相談会、夜の説明会、随時見学等を軸として広報活動を実施する。また、中学入試に向けたミニオープンスクールを新たに実施する。 ②ウェブ(ホーム)ページ及びSNSでの発信をこれまで以上に充実させる。 ③小・中学校や塾訪問の事前準備を入念にすると共に、訪問先を厳選するなど、戦略的に実施する。	教務部 企画広報部 企画広報部	通年 通年 5月～11月
<b>VII 学校組織力の強化</b>			
1. 組織体制の充実	①「凡事徹底、進取果敢。」を合い言葉にし、「協創」意識と同僚性を重視した組織を目指すため、中期事業計画に基づいた年度事業計画を踏まえて、各部が主体的に考え、行動できる体制を構築する。また、その振り返りを全教員で共有する。 ②年度事業計画に基づき、校務運営会議、教科主任会議、学年会、部会等での昨年度の評価・振り返りを踏まえた教科別等事業計画を作成し、実施する。 ③研修主任及び中高一貫教育担当を中心に、教職員研修及び中高一貫教育体制の充実を図る。	全教職員 管理職、教務部 教務部	通年 通年 通年
2. 人事評価の実施	①適正な評価に基づいて教師力を高め、組織として教育力を最大化することを目的として策定した「キャリア・アップ・シス	管理職	通年

主要項目	具体策	所管部局	実施月
Ⅷ事務室の機能強化	テム」(人事評価制度)を活用し、教職員の成長を支援する。		
	①「キャリア・アップ・システム」(人事評価制度)を活用し、事務室の企画、財務面の機能強化を図る。	事務室	通年
	②教職協働の考え方にに基づき、事務職として学校経営に積極的に参画する意識の醸成を図る。	事務室	通年
	③施設・設備中長期保全計画に基づき、計画的な施設・設備の維持管理に努める。 ④教職員の勤務管理を適切に行うと共に、健康の保持増進に努める。	事務室 事務室	通年 通年